

平成19年度 学校自己評価表

長野県中野実業高等学校(全日制)

学校教育目標		重点目標(中・長期的目標)				
校訓 至誠創造 (純粋なまごころをもって、21世紀を生きる創造的な人間に育て欲しいという願いがこめられている。)		1 生徒一人ひとりの学力を伸長させ、希望する進路の実現を図る。 2 礼儀・挨拶・身だしなみの大切さを自覚させ、規範意識を高めさせる。 3 スポーツを通して明朗闊達な精神力を育む。 4 環境美化に積極的に取り組み、文化の香りが漂う学舎づくりに励む。				
教育基本法・学校教育法及び長野県立高等学校管理規則に基づき、特に次の項目を本校教育の目標として掲げる。		* 中野立志館高校の開校を機に、更に地域に愛され信頼され期待される学校づくりを目指し、新総合学科高校への円滑な移行を図る。 1 基礎学力の向上を図る。(学習指導の充実、授業改善) 2 専門分野の学習に積極的に取り組む態度・意欲を育てる。(実学教育の充実、地域との連携) 3 基本的生活習慣の確立を目指す。(挨拶・身だしなみ、遅刻指導、環境美化) 4 キャリア教育の充実を目指す。 5 スポーツや文化活動による活力に満ちた明るい校風づくりを目指す。 * 達成度 A 達成できた B ほぼ達成できた C 改善の余地がある D 相当の改善を要す				
総合評価	(成果と課題:達成度(B)) 職員・生徒一体となった「重点目標」達成に向けての取り組みが徐々に浸透し、多くの生徒が元気な挨拶をするなど明るく伸びやかな学校生活を送っている。中途退学者も激減したが、一部には規範意識や学習意欲に欠ける生徒が存在する。	[改善策・向上策] 来年度は専門高校としての最終年度となる。専門高校としての特徴を活かした学習指導や生活指導を、全職員のコンセンサスを得ながら推進したい。また、立志館高校と連携し円滑な校務運営を図り、総合学科高校への着実な移行を図る。				
領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
教育活動	1 学習指導	・ 学習指導の充実 ・ 基礎学力向上のための授業改善	・ 生活学習実態調査の実施・分析等を行い、学習実態の改善に結びつけることができたか ・ 日常的な授業検証や生徒への授業アンケートにより授業改善の具体化がなされたか	・ 生活学習実態調査を実施し、集計結果を職員間で確認した。家庭学習不足等本校生徒の実態が浮かび上がっている ・ 授業アンケートを実施し結果を職員間で確認、個々の反省と授業改善の材料とした。長期休業中等、学力補充を実施した	B B	・ 課題意識を全職員のものとし、調査結果の活用方法を各教科や各係・委員会で検討し、今後の指導に役立てる ・ 長期休業中や放課後の学力補充を引き続き実施するとともに、更なる授業改善の意識向上を図る
	2 専門科 商業科	・ 簿記習熟度別授業の充実 ・ 地域連携の推進	・ 習熟度別授業により学力向上が図れ、生徒個々の目標を達成(資格取得)させることができたか ・ 空き店舗を利用した実習販売や地域行事への参加を通して、地域活性化に向けた取り組みをさせることができたか	・ 個々の生徒に応じたきめ細かい指導ができ、それぞれの目標とする資格取得に前向きに取り組ませることができた ・ 地域行事へは、店舗出店1回、まちなか音楽会2回主体的に参加させた。また地域観光案内HP・ポスター作成、地域商店に関する調査研究をさせた	B C	・ 来年度習熟度別授業の実施予定はないが、放課後等を活用し資格取得に向けた学習活動を支援する ・ 商業部員、授業選択者の減少により、限られた生徒のみの活動となってしまった。より多くの生徒が参加する体制を検討したい
	機械科	・ ものづくりを通じた技能・技術向上と創造力の育成 ・ 機械技術者としての基礎能力の育成と応用力の向上	・ ものづくりコンテストや資格取得を通して、作品の完成度を高め基礎理論の積み重ねができたか ・ 通常の授業で学んだ事柄を基礎に、主体的に創意工夫しながら「課題研究」に取り組ませることができたか	・ ものづくりコンテストへの参加や資格取得に挑戦させるなど、学習に自発的に取り組ませることができた ・ 「課題研究」では協力しあいながら創意工夫して問題を解決しようとする姿が見られたが、技能・技術の未熟さから行き詰まることもあった	B B	・ 個々の技能・技術を関連づけ相互補完的に学習できるような教材づくりや学習形態を考える必要がある ・ 日進月歩する産業界の実態に対応するため、職員研修の充実を図る
	電気科	・ 電気技術者としての基本的能力の育成 ・ 学科に関する資格試験・検定試験への対応	・ 基礎的内容のきめ細かな指導を行い、生徒相互で教えあう実技科目の学習を通して、基本的能力を定着させることができたか ・ 補習等を含めた指導で、資格を取得させることができたか	・ 基礎科目では、きめ細かい指導を行った。「実習」や「課題研究」では、生徒相互の協力と工夫して学習する姿が増した ・ 資格取得について、一定の成果は得た。課題としては、生徒個々の能力差が拡大していることへの対応である	B B	・ 校舎改築に伴い、実習科目における施設設備の制約があったため、指導項目の順序等を工夫した ・ 理解力に欠け学習効果の上まらない生徒については、今後も習熟度指導や放課後の補習等で対応したい
	土木科	・ 建設技術に関する基礎学力の向上と基本的技術の習得	・ 力学・測量の基本的な計算を正確に理解させることができたか ・ 実習・課題研究に主体的に取り組むことにより、興味関心をより深めることができたか	・ 2・3年生全員で実施した「測量総合実習」では、所期の目標が達成できた ・ 3年生は卒業後、専門分野へ進む生徒が多く、専門分野の学習が活かされた	A B	・ 学習に向かう姿勢や基本的生活習慣を確立させる ・ 来年度は専門科最後の学年である。専門分野の知識・技術を身に付け、主体的に進路選択できるよう指導する

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度	改善策・向上策
教 育 活 動	3 生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣(挨拶・身だしなみ・時間厳守・整頓美化)の確立 問題行動の予防 盗難事件の予防 	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画(実施方法)の立案、実施が着実にでき、十分な成果が得られたか 全職員の理解と協力を得られたか 	<ul style="list-style-type: none"> 計画立案・実施は概ね目標どおりだったが、身だしなみ等成果は充分でなかった 件数は減少したものの、問題行動を繰り返す生徒がいた 盗難事件は激減した 	A B B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から職員が率先垂範する 反省指導で学年団職員の面接指導が有効に機能しているのを継続する コミュニケーションの質の向上により職員間の指導の温度差をうめる
	4 保健環境	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進 学校美化 安全管理 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・職員に自己の健康管理の必要性を認識させ行動させることができたか 生徒会との協力により、美化が図れたか 安全な学校生活を送らせることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒向け通信」等で健康増進や安全確保について啓発した 市のゴミの分別回収にあわせ、生徒会活動の一環として分別回収に取り組んだ 生徒向けおよび職員向けのAEDの講習会を実施した。また行事前等をとらえ、健康相談を実施した 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き「生徒向け通信」等を通して学校安全や健康増進を啓発する ゴミ分別収集については、立ち番指導等生徒・職員一体となって推進し、尚一層の徹底を図る ストーブ使用規定の徹底方法を検討する
	5 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の推進と進路実現 	<ul style="list-style-type: none"> 専門高校の特徴をいかしながら、進路講話・職場体験学習・職場見学会等を通して勤労観・職業観を身に付けさせ、自己の進路を前向きに考えさせることができたか 望む進路の実現に向かって計画的に取り組ませることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 学年・専門科と連携した学習活動や職場見学・職場体験を通じてよりよい進路選択・進路決定ができた。個々の生徒が早い時期より、目的意識を持ち自己の進路実現に向けて努力できるよう支援した 各種ガイダンスや受験対策講習会などを計画・実施、進路実現に向けて成果が上がった 	A B	<ul style="list-style-type: none"> より学年・科・地域企業と連携を深め、進路実現に向け専門高校の特徴を活かした指導に取り組む 職場見学や職場体験への積極的な参加を促し、生徒自身が自ら行動できるようなキャリア教育を推進する
	6 生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 全員参加の生徒会 新高校の生徒会規約検討 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの役割を明確化し、文化祭等への参加状況を改善することができたか 自主性を育む規約を作成することができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの参加に対する自覚のもと、委員会活動や文化祭への参加状況が改善された 立志館高校とのすりあわせのため、クラブ活動や文化祭等の様子を伝えた 	B B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を通して実高生としての自覚を醸成させ、生徒自らが服装や頭髪等身だしなみの状況を改善できるように指導する 立志館高校との連携を図る
	7 学年会 2学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と自己の可能性の追求 具体的な職業理解と資格取得 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動や部活動を含めた学習・学校生活の中で自己伸長させることができたか インターンシップや資格試験等へ積極的に取り組ませることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動においては活動の中心学年として、積極的に取り組んだ。修学旅行や文化祭においても、集団活動や平和学習等所期の成果を達成させることができた 進路ガイダンスや進路希望調査を行い、進路を具体的に考えさせた 	B B	<ul style="list-style-type: none"> よりきめ細やかな指導を心がけ、引き続き積極的な学校生活を送らせ自己伸張させる 進路ガイダンスや懇談等の機会を数多く設定し、より具体的に進路を考えさせる
	3学年	<ul style="list-style-type: none"> 自己伸長と適性にあった進路選択 自律心及び社会性の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 希望する進路を実現させるべく自己伸長に向け努力させることができたか 最高学年としての自覚を持ち、より良い高校生活を送らせることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導係と連携し、生徒の希望する進路が順調に決定しほぼ100%の内定を得ることができた 最上級学年の自覚を持ち、各種行事でも責任ある行動がとれた。生徒会活動も無事次期役員に引き継ぐことができた 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 進路が決まってから以降の生活にやや緊張感を欠いた生徒が見られた。責任ある行動がとれ有為な社会人となれるよう、卒業後も成長を見守っていきたい
	学 校 運 営	8 魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 新総合学科高校への円滑な移行 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容等について、地域の実態・要望(小中学校・企業・諸団体)を踏まえた検討が進んだか 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容についてより具体的な検討が進み、総合学科に必要な施設・設備を整える工事も順調に進んだ 	B
9 校内研修		<ul style="list-style-type: none"> 各領域の目標達成に向けた校内研修の充実 個人研修の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容・回数が適切で効果的であったか 個人研修の成果が全体のものとなったか 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの係からの提案もあり、校内研修を4回実施した 多くの職員が総合教育センター講座を受講するなど、各自の課題に取り組んだ 	B B	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーな研修会の実施および研究授業や公開授業の回数を増やし、個々の職員の教育力を向上させる 各係や委員会および科単位を中心に研修の成果を伝達し共有する

(注)学校自己評価委員会が取り扱わない領域及び対象領域の重点目標(活動目標)以外は、各分掌ごとに前年度の総括を踏まえて計画した基本方針及び実施業務の検討を行い、本年度の成果と課題(改善策を含む)を年度末に提示する